

## 1. 評価結果概要表

[認知症対応型共同生活介護用]

## 【評価実施概要】

事業所番号	4572000679
法人名	有限会社すいせん
事業所名	グループホームすいせん高鍋
所在地	宮崎県児湯郡高鍋町大字上江6649-145 (電話)0983-23-2351
評価機関名	宮崎県医師会サービス評価事務局
所在地	宮崎県宮崎市和知川原1丁目101
訪問調査日	平成 22年 3月 26日

## 【情報提供票より】(22年2月28日事業所記入)

## (1) 組織概要

開設年月日	平成 16年 9月 12日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	10 人	常勤	3人, 非常勤 7人, 常勤換算 7.2人

## (2) 建物概要

建物構造	軽量鉄筋 造り		
	1階建ての	1階 ~	1階部分

## (3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	20,000 円	その他の経費(月額)	理美容・オムツ 実費
敷金	有( 円)	<input checked="" type="checkbox"/> 無	
保証金の有無 (入居一時金含む)	有( 円)	有りの場合 償却の有無	有/無
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 円
	または1日当たり		1,000 円

## (4) 利用者の概要(2月28日現在)

利用者人数	7名	男性	2名	女性	5名
要介護1	2名	要介護2	1名		
要介護3	3名	要介護4	1名		
要介護5	名	要支援2	名		
年齢	平均 84歳	最低	80歳	最高	91歳

## (5) 協力医療機関

協力医療機関名	内田委員 浜本歯科医院
---------	-------------

## 【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

幹線道路から少し入った静かな環境の住宅地の中にホームはあり、敷地が広く、広々とした空間に吐き出し窓から広いウッドデッキがあり、開放的なホームである。理念でうたっている「えがお・優しさ・思いやり」「常に耳を傾け」を大切に、利用者の穏やかでその人らしい生活が出来るよう支援している。家族や利用者、職員、地域住民、ボランティアの方が参加するホームの3大行事として、運動会、バイキング等を実施し、地域・家族・職員の協力のもと、利用者を支える取り組みがなされている。小さな検討事例から全職員で話し合い、なじみの関係を継続させることを大切に、職員同士で支えあい働きやすい環境を作る努力をしている。

## 【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	前回評価での課題項目は改善をされており、外部評価を活かそうとする真摯な取り組みがみられた。理念は見直しがされており、地域密着型としての理念となっていた。介護計画の見直しに関しても、毎月職員会議にて状態の変化や支援内容の検討を行い、ケアにつないでいる。重度化や終末期に向けたケアに関しても、医師との連携、協力を得ながら家族・職員で看取りを行い、今後の取り組みを強化したいという思いがある。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	管理者は、評価の意義や目的について職員に説明し、理解を得ている。今回の自己評価は、項目ごとに職員は関わっているが、全部の項目を全職員で取り組めていない。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	行政職員、地域の役員、民生委員、老人会、家族代表の参加があり、2か月に1回定期的に開催している。家族は毎回ほぼ全員の参加があり、協力が得られている。活動内容の報告や検討事項などについて、参加者からの意見も活発にみられ、活動内容やケアの向上に役立っている。管理者は、市担当者や運営上の報告や課題等について、気軽に相談できる関係が築かれている。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	家族の来訪時に利用者の健康状態や暮らしぶりを報告し、定期的にホーム便りを発行している。ほとんどの家族が、面会のため頻回に足を運んでもらえているため、家族との連絡密に取れている。家族や利用者、職員、地域住民、ボランティアの方が参加するホームの3大行事として、運動会、バイキング等を実施し、意見の出やすい環境を作るなどの取り組みがなされている。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	自治会には加入していないが、区長より定期的に地区広報誌が届けられ、地区の情報が得られている。近隣との交流や地元の商店との買い物を行い、日常的に良い関係が図れるよう心がけ、公民館や老人会にも出向いてホームの説明を行い、地域から理解してもらえるよう取り組んでいる。

## 2. 評価結果(詳細)

(  部分は重点項目です )

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	理念は前回の評価から見直しがなされ、職員全員の思いを吸い上げ作り上げている。地域密着型として地域との交流が謳われ、えがお・優しさ・思いやりを提供し、常に耳を傾け利用者に接することを大切にしたホーム独自の理念を作り上げている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	全職員が、理念を意識し業務に活かすことができるようミーティング等で話し合い実践に取り組んでいる。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	自治会には加入していないが、区長より定期的に地区広報誌が届けられ、地区の情報が得られている。近隣との交流や地元の商店との買い物を行い、日常的に良い関係が図れるよう心がけ、公民館や老人会にも出向いてホームの説明を行い、地域から理解してもらえるよう取り組んでいる。		今後、自治会等への加入も検討して、地元地域との交流がさらに深まるよう期待したい。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	管理者は、評価の意義や目的について職員に説明し、理解を得ている。今回の自己評価は、項目ごとに職員は関わっているが、全部の項目を全職員で取り組めていない。 昨年の評価での指摘項目は改善をされており、外部評価を活かそうとする真摯な取組みがみられた。	○	自己評価を、職員全員で取り組み、管理者・職員それぞれの立場で、ケアの振り返りの機会とし、質の向上に繋がるような取り組みがなされることを期待したい。
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	行政職員、地域の役員、民生委員、老人会、家族の参加があり、2か月に1回定期的に開催している。家族は毎回ほぼ全員の参加があり、協力が得られている。 活動内容の報告や検討事項などについて、参加者からの意見も活発にみられ、活動内容やケアの向上に役立っている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	管理者は、市担当者と運営上の報告や課題等について、気軽に相談できる関係が築かれている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	家族の来訪時に利用者の健康状態や暮らしぶりを報告している。ほとんどの家族が、面会のため頻回に足を運んでもらえているため、家族との連絡は密に取れている。利用者の暮らしぶり伝えるため、定期的にホーム便りを発行している。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関に意見箱を設置しており、家族の来訪時や電話にて希望、要望を引き出すよう努力している。家族や利用者、職員、地域住民、ボランティアの方が参加するホームの3大行事として、運動会、バイキング等を実施し、意見の出易い環境を作るなどの取り組みがなされている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	管理者は、利用者へのダメージを防ぐことと、なじみの関係を継続させることを大切に、職員が働きやすい環境を作る努力をしている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	事業所外での研修にも可能な限り受講できるようにしており、研修に参加した職員がスタッフ会議の中で復命講習を行い、全職員で共有できるように取り組んでいる。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム連絡協議会へ管理者や職員も参加して、勉強会や情報交換を行い交流を深めている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	利用開始前に見学の受け入れを行い、場の雰囲気に馴染めるよう支援している。また、職員が自宅や病院を訪問して、家族や利用者の要望や不安を聞き、安心して納得しての利用が出来るよう努めている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜ぶ哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	理念にある「常に耳を傾け、我が家のようなアットホームな環境作りを目指す」を目標に、利用者の思いに寄り添い支えあう関係作りに努めている。利用者から難しい漢字を学んだり、生活の技を学ぶ機会があり、共に支えあっている関係がみられた。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	会話の中や行動で把握できた利用者の意向、思いを細かく把握しケアに取り組んでいる。しかし、身体レベル等が徐々に低下し、思いや希望が表出できにくい利用者の把握が困難になってきている。どう、利用者の思いに気づけ、近づけるか検討課題になっており、試行錯誤し取り組んでいる。		
、					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	利用者がより良く暮らせるために、本人や家族、必要な関係者から意見を聴き、それぞれの意見を反映した利用者本位の介護計画を作成している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	毎月の職員会議でモニタリングを行い、状態の変化や支援内容の検討を行い随時、介護計画の見直しを行っている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</b>					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	通院は家族対応が困難な場合など、職員が付き添い介助支援を行っている。利用者の状態や家族の希望に応じ、家族の宿泊も受け入れている。		
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	事業所の協力医による月に1回の往診体制があり、適切な医療が受けられている。職員が通院支援を行った際には、必ず家族に報告している。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	昨年、医師との連携、協力を得ながら看取りを行っている。今後も利用者や家族の思いに添いながら、重度化や終末期ケアに向け、職員の質の向上や職員体制を引き続き取り組んでいきたいという意欲がみられた。		重度化や終末期のケアの取り組みを行っていることを、機会あるごとに、家族に説明できると、さらに家族の安心や情報の共有につながり良いのではないだろうか。
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
<b>1. その人らしい暮らしの支援</b>					
<b>(1)一人ひとりの尊重</b>					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	文書類は見えないように工夫された場所に保管され、プライバシー・個人情報保護を尊重した取り組みがみられた。職員の声かけはゆっくりとやさしい雰囲気が感じられた。職員の質の向上に繋げていくため、プライバシー保護等の内部研修を取り組む計画をしている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりの体調に配慮しながら、その人らしい生活ができるよう支援している。起床時間や食事時間など、利用者の要望でずらしたりして無理強いしないように支援している。常に利用者の状態の変化やその日、その時の意欲を察知し、さりげなく支援している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</b>					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	職員は、利用者の食事の介助をしながら話しかけ、食事が楽しくなるよう雰囲気作りに気を配っている。野菜がふんだんに使っており、高齢者が好む食事の内容である。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	曜日や時間帯は決まっているが、その日の状態や希望に応じ支援している、入浴はゆっくりゆったりしてもらうために、1対1で会話を楽しみながら支援している。		
<b>(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援</b>					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	年に3回の大きな行事(バイキング 運動会等)を行い、また、ボランティアの協力も得て利用者が楽しめる機会を作っている。しかし、生活力や利用者の力を活かした役割の支援は、利用者の身体レベルが低下するごとに困難になってきおり、個々の利用者に応じた取り組みに、試行錯誤している。	○	潜在している記憶や出来る力を最大限に活かし、豊かでやりがいのある日常生活につなげるため、何がその人の役割やたのしみにつながるか検討し続けてほしい。
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	季節の定期的なイベントなどの外出は行っているが、日常的な外出支援までは至っていない。広々としたウッドデッキや広い中庭があり、庭を利用して散歩は行っている。		事業所内の生活にとどまらず、一人ひとりのその日の希望にそって戸外に出かけられるように積極的に支援してほしい。
<b>(4) 安心と安全を支える支援</b>					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	職員体制が少ないときや利用者が不安定なときは、鍵をかけることがあるが、極力鍵をかけないようにしている。その日の利用者の状態や気分を観察し、声をかけたり見守りを行い、安全に生活できるよう支援している。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	夜間を想定した避難訓練では消防署から適切な助言を頂き、その結果を踏まえた反省の記録も詳細に書かれ、災害対策に積極的に取り組んでいる。地区の消防団との連携も図れ、推進会議にも参加して頂いたことがある。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事や水分の摂取状況を記録し、職員が情報を共有している。利用者一人ひとりの嗜好を把握し、献立にも希望を取り入れている。役場の管理栄養士の助言を参考に、献立を立てている。利用者の麻痺の状態に応じた、食器類の選定にも気を配り、出来るだけ自力で食事ができるよう支援している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	居間は天井も高く広々とし開放感があり、掃き出し窓も大きくとってあり採光も充分で明るい雰囲気であった。居間からウッドデッキにつながっており、車椅子の利用者も、すぐ外に出る事ができ閉塞感がない。利用者のすぐ傍から、調理する音や匂いを感じられ、家庭的な雰囲気が得られている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	壁には家族の写真や家族が作った季節の飾付けがされたり、利用者が丹精こめて作った作品が飾られ、居心地よく過ごせる取り組みをしている。居室は広く日当たりも良い。利用者が居室にいないときも、空気の入替えのため、換気がなされていた。		